

福音の園だより

【第二十四号 二〇〇六年 十二月 七日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

ボランティアの声

思いがけない微笑みに姉を思い出し

今日は「園芸療法の日」です。福音の園の庭に、ご利用者が三々五々集まります。車イスの方も、手を引かれる方もゆったり、スローライフの時が流れる中、明るいSリーダーが語りかけます。「今日は何の日?」「何の日で云うても」ワイワイ、ガヤガヤ。陽の光を浴びて嬉しげな返事が返ってきます。仲間とお話が出来た人、黙って時の経つのを待つ様子の人。「今日は花壇にお花を植えまーす」。好きな色のパンジーを夫々に選んでもらいます。植える場所も、配色も皆夫々に決めて、小さな穴も夫々手掘り、職員もボランティアも手を添えて一緒に植えます。配色は意外な出来映え、オーキレイの歓声。花壇はたちまち赤青黄の花がいつぱい。ご高齢のMさんは終始黙って車イス。こうして土を掘ってと手を添える。Mさんの手がゆっくり動いて土を掘ります。お相手は千葉大学の学生さん。

いい雰囲気と感じていた時無表情だったMさんに微笑みが、そして「ありがとう」ざいます。

思いがけない微笑みに私は思わず見入りました。そして、九州の笑うことのない姉を思い出して、涙が止まらなくなってしまいました。あの微笑みを、特養ホーム入所中の姉に見る日が来るだろうか。

暖かい陽の中で、色とりどりの小さな花びらが揺れて満ち足りたひと時が流れていました。さあ、お水をあげて出来上がり。小さな如雨露が植えたばかりの花の根もとに水をかけてまわりました。

(川口市 K・Y)

土台にある穏やかな雰囲気

私は今、大学で農業の福祉的機能に関する研究というテーマの卒業論文に取り組んでいます。

NPO法人「土と風の舎」が園芸福祉の活動をされているのを知り、問い合わせたところ、福音の園での活動を見学させていただくことになりました。

日光を浴び、会話をしながら手を動かし、その時、その場を楽しんでいる様子を見て、外に出て園芸活動をすることは、職員や園芸スタッフとの会話、入居者同士の会話のきっかけになること、それに伴って表情豊かになることを実感しました。花や野菜、天気などの話題は誰にも共通で、誰も傷つけることのないものであることも改めて感じました。

いくつもの施設を見学してまわっていますが、福音の園の職員の方々、土と風の舎のスタッフの方々は入居者の方々に丁寧な接している感じで、それによって穏やかな雰囲気になっていたのが印象的でした。そのようなものが土台にあるから園芸活動も楽しめるのだらうと思いました。

(千葉大学 園芸学部・園芸経済学科四年M・O)

バザー協力者の声

初めまして。私のような者が作った作品を取り扱っていただけると、心より嬉しく思います。

子育てに一生懸命で、

仕事をしながら、世の中への

恩返しを忘れておりました。リハビリの為に人形作りが少しでも皆様にお役に立てるのであれば、これからも心からお手伝いさせていただきます。(I・K)

御礼 玉ネギ・ジャガイモ・カボチャ・でんぷん

F・T様(北海道・共和町)

サツマイモ ふじみ野バプテスト教会様

ハクサイ S・Y様(長野県佐久市)

良書紹介

『オランダの個別教育はなぜ成功したのか』

著者 リヒテルズ直子(平凡社)

オランダで教育や社会情勢を研究する著者が、一人ひとりの個性を尊重するオランダの教育を解説する。

著者は、オランダの個別教育には「イエナプラン教育」が重要な役割を果たしたと説明する。イエナプラン教育の最大の特徴は、学年の違う子供を混合して編成した学級で行なう点にある。教えたり助けたり、教えられたり助けられたりする立場を交互に体験することが、人間関係の築き方の訓練となり、真のリーダーシップが養成され、能力の開発が刺激されるといいます。オランダの「画一から個別へ」の改革は、当園が目指す「画一的な支援の押し付けにならないように、一人ひとりの生活作りをお手伝いします」という運営方針と相通することから、スタッフ図書用に買い求めた。

(グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳)

